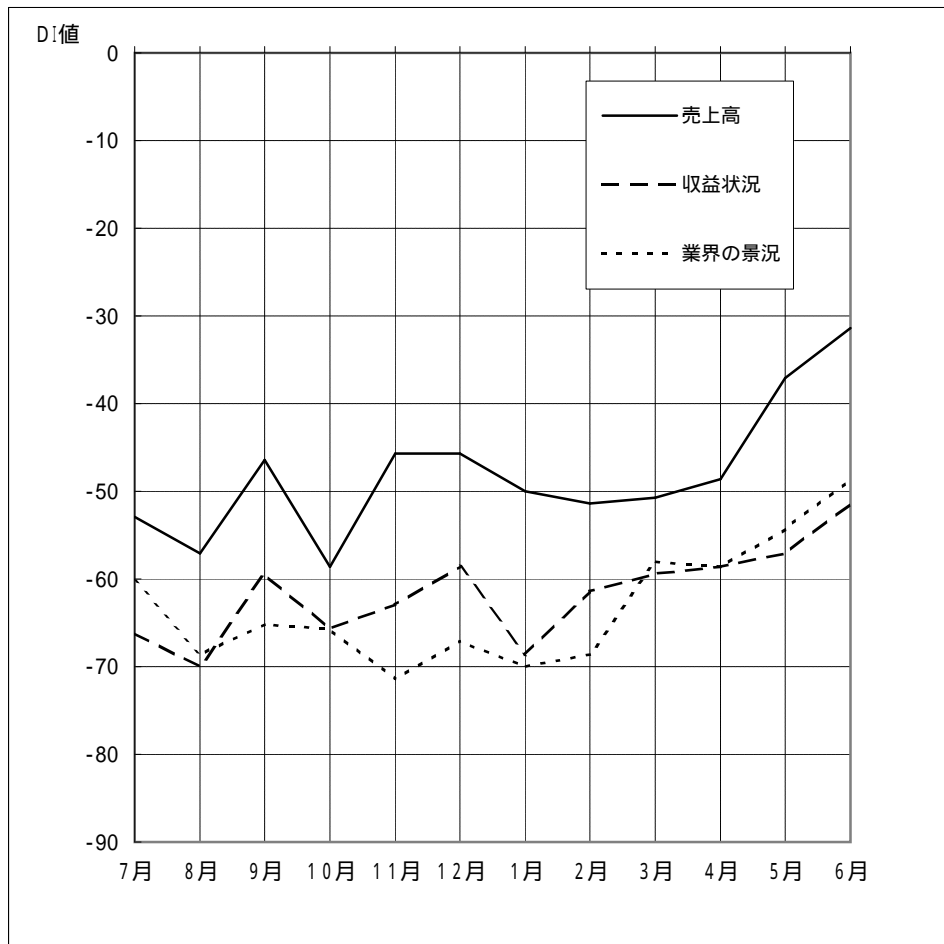


業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成14年7月～平成15年6月

単位:ポイント



	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
売上高	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6	-45.7	-45.7	-50.0	-51.4	-50.7	-48.6	-37.1	-31.4
収益状況	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7	-62.9	-58.6	-68.6	-61.4	-59.4	-58.6	-57.1	-51.4
業界の景況	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7	-71.4	-67.1	-70.0	-68.6	-58.0	-58.6	-54.3	-48.6

6月のDI値を見ると、3項目全てに改善がみられた。

「売上高」は、5.7ポイントの改善があり、この4ヶ月間改善がつづき総計20ポイントも上昇した。「収益状況」および「業界の景況」は、ともに5.7ポイントの改善であり「業界の景況」は、平成12年12月以来の-40%台に推移したが、デフレ経済の影響により売上高の伸び程の大幅な改善には繋がっていない。中小企業の景況は、4ヶ月間連続で右肩上がりに推移し続けているが、実態感に乏しく実質的にはデフレ経済と需要不足に悩み厳しい状況である。

業種別に見ると、製造業で「食料品」で小幅な改善があり、悪化した業種がなかったために前月よりも改善した。また、非製造業では、「運輸業」で若干悪化した。また、「卸売業」、「商店街」、「建設業」で小幅な改善があったために非製造業でも若干改善がみられた。総体的に前月同様、製造業よりも非製造業のほうが景況感が悪い傾向にある。

組合の特記事項からは、「一般機器」や「商店街」、「建設業」の一部で受注増加や売上増加の景気の良い報告があり、景況感の改善を感じさせたが、多くの報告では、需要の減少や値下競争による収益確保が依然として厳しい状況であった。